CD 朗読版 紀行文学名作選

1〜4 田山花袋

1 みちのく 並木つたい・峠を越えて
東北 青森・秋田・山形・岩手・宮城・福島
146分

2 関東 茨城・栃木・群馬・千葉・埼玉・神奈川
中部 山梨・静岡・長野・新潟・愛知・岐阜
156分

3 近畿 三重・滋賀・京都・奈良・和歌山・大阪
近畿・北陸・山陰 大阪・兵庫・富山・石川
福井・鳥取・島根
154分

4 山陽・四国・九州 岡山・広島・山口・愛媛
香川・徳島・高知・福岡
九州 熊本・鹿児島・宮崎・大分・佐賀・長崎
156分

5 林 芙美子・石川啄木 国木田独歩・大町桂月 柳 宗悦・柳田國男

5 北海道 摩周湖紀行・雪中行・空知川の岸辺
層雲峡より大雪山へ
屋久島・沖縄 屋久島紀行
沖縄の思い出・島の人生
145分

日本朗読人協会 編　編集委員 太田治子（作家）、石原広子（舞台女優）、佐藤遊歩（演出家）

日本の原風景を訪ねて…

私は、いろいろな懊悩（おうのう）、いろいろな煩悶（はんもん）、そういうものに苦しめられると、いつもそれを振り切って旅へ出た。それにしても旅は、どんなに私に生々としたもの、新しいもの、自由なもの、まことなものを与えたであろうか。旅に出さえすると、私はいつも本当の私となった。（田山花袋）

❶ 田山花袋

みちのく

芭蕉の言葉に導かれ、新しき「奥の細道」を、独り、草鞋で、東北「みちのく」の旅に出る若き田山花袋。花袋紀行文集のプロローグ。

並木ついち 東京、千葉、栃木、茨城、福島
朗読 石原広子、飯田明子、石橋みや子 三五分

峠を越えて 青森、秋田、山形、岩手、宮城
朗読 石原広子、飯田明子、石橋みや子 三三分
平潟、勿来の関、松川浦、松島、中尊寺、北上川、盛岡、国見峠を経て、秋田に入る。鳥海山を巡り、雄物川を越えて母の故郷である山形へ。

青森堤橋

東北

青森 八戸、浅虫温泉、青森、弘前
朗読 武田たか子 八分
花袋の紀行文の始まりは、八戸から。いきなり、亡くなった人に逢えるという恐山、浅虫温泉を経て、青森、弘前と往く。

秋田 男鹿半島、象潟、秋田 朗読 武田たか子 八分
「男鹿半島の景色は日本一」だと土地の人は言う。だが、大河・能代川を筏で下る風情も日本一である。

山形 酒田、鶴岡、天童 朗読 武田たか子 八分
山形には月山を仰ぎながら天童から入り、芭蕉の思いを探りながら、最上川、山形、鶴岡、酒田の街を往く。

岩手 平泉、盛岡、厳美渓、岩手山、三陸海岸
朗読 渡辺京子 一八分
中尊寺を訪れ、北上川、盛岡、厳美渓を経て、三陸を海上から眺める。

宮城 仙台、金華山、松島、阿武隈川 朗読 曹野和子 一八分
鳴子の温泉地、塩釜の港、仙台の街、金華山、松島の景勝、阿武隈川の畔。伊達政宗と芭蕉が随所に現われる。

福島 須賀川、郡山、会津若松、福島、飯坂温泉、勿来の関
朗読 市川俱子 一九分
須賀川、郡山、会津若松、猪苗代湖、磐梯山、福島、飯坂温泉、勿来の関。福島は多様だ、中心がいくつもある。

収録時間 一四六分

❷ 田山花袋

関東

茨城 大子、筑波 朗読 藤澤洋子 一〇分
筑波山、鬼怒川、大子、久慈川、矢祭山、八溝山を往く。ここには、時宮殿が置かれていた。

栃木 那須野、黒磯、日光
朗読 小山不二子 一三分
芭蕉も馬で越した那須野 黒羽、黒磯。花袋がこよなく愛した日光。山岳と滝を巡り、旨い物を紹介する。

群馬 前橋、高崎、伊香保温泉 朗読 山口てる代 一〇分
前橋と高崎、赤城、榛名、妙義の上毛三山。温泉地では伊香保、草津。町も景色も競い合っている。

千葉 銚子、佐倉、成田、市川、房総
朗読 川舎内栄子、日向輝子 二一分
利根川中流を関宿、手賀沼から布佐、布川を経て、河港の銚子に到る。水の民の静かな落着いた生活。房総半島では鹿野山、清澄山、九十九里浜を巡り、印旛沼に古代の幻想的なシーンを見る。

埼玉 秩父、越谷、草加 朗読 秋元かおる 一一分
越生、長瀞、秩父、川越、越谷と、小旅行。いつも新しい発見があった。

神奈川 鎌倉、三浦半島、箱根 朗読 有村さとみ 一三分
鎌倉、三浦半島、相模海岸、湯河原、小田原、箱根の山。十国峠から見る風雪の富士、海上に浮かぶ初島。

高崎本町通

中部

山梨 富士山、甲府盆地、南アルプス
朗読 北村敏子 一二分
富士の偉大さを語り、甲府辺りの高原地帯を愛で、南アルプスの深い峡谷に分け入る。

静岡 伊豆半島、東海道（沼津、清水、静岡、大井川）
朗読 石原みほ子 一六分
伊豆半島を一巡し、東海道を三島、沼津、清水、静岡、大井川と往く。各地で歴史のロマンに思いを馳せる。

長野 諏訪湖、松本、北アルプス 朗読 赤沢伸子 一五分
諏訪湖、木曽谷、松本、高遠。戦国武将が「塩の道」を駆け巡り、宙では北アルプスが越えた大さを誇る。

新潟 親不知、佐渡、赤倉温泉 朗読 五十嵐和子 一三分
義経、南朝の皇族の落ち延びた親不知の険、眺望見事な赤倉温泉、金山で知られる大きく豊かな島、佐渡。

愛知 三河、名古屋、桶狭間 朗読 港澄江 一二分
信長を一夜にして英雄とした桶狭間、熱田神宮、名古屋市街、金の鯱。「中の京」名古屋。

岐阜 長良川、岐阜、大垣、関ヶ原 朗読 松永風子 九分
豊穣な濃尾平野、長良川の鵜飼い。なぜ石田三成は関ヶ原で戦い敗れたのか。歴史の謎は尽きない。

収録時間 一五六分

3 田山花袋

近畿

三重　伊勢神宮　朗読　三沢美野里　一〇分
神様の中の神様、伊勢神宮。五十鈴川は清らかだった。

奈良にある梅の名所、月ヶ瀬には伊賀盆地・上野から入る。

滋賀　米原、安土城、琵琶湖　朗読　木村博俊　一二分
彦根の楽々園、安土城、船で多景島、竹生島を巡り今津へ。花袋はつぶやくと、「琵琶湖を見直した」。

京都　天橋立、広隆寺、嵐山、宇治　朗読　鶴見光子、伊藤節子　二一分
舞鶴から船で天橋立へ。京都見物もそこそこに、都の在り方を語る花袋。古き都の典型として挙げる広隆寺。そして、都入路を避けて北の嵐山と南の宇治に。大堰川の屋形船、保津川の川下り。宇治川、平等院、茶摘み。

奈良　若草山、唐招提寺、薬師寺、法隆寺　朗読　山崎洋子　一二分
若草山、猿沢の池、東大寺、唐招提寺、薬師寺、法隆寺を巡る。厳然として千年前の昔がそこにあった。

和歌山　吉野、熊野　朗読　小田島恭子　一三分
奈良、三重にもまたがる吉野、熊野。吉野は桜、熊野は滝。共に千年余の歴史を持つ神社を擁している。

大阪　河内　朗読　小宮和子　九分
古代の天皇陵や埴輪群成の数々の遺跡。尊皇派を自認する花袋が丹念に歴史を探る。

京都祇園

近畿・北陸・山陰

大阪　道頓堀、心斎橋、梅田　朗読　小宮和子　七分
生国神社を語って、道頓堀、心斎橋の繁華街を通り、ふと語り出す「カネがすべての大阪商人物語」。

兵庫　神戸、播州　朗読　早坂百々子、見城敦子　二二分
桟橋と洋館の建ち並ぶ神戸。さびしい漁村が日本一の港になるには、それだけの歴史があった。そして、ひたすら松を求めて播州の海岸に。そこには歴史に名高い尾上、高砂、曽根の松と、静かに眠る公達の墓。

富山　富山、高岡、黒部　朗読　尾崎逸子　一一分
越中五十万石の平野に高岡、富山、魚津の街、背後には北アルプスと黒部の大峡谷。

石川　能登、安宅関　朗読　堀越道子　九分
邑知潟、河北潟、柴山潟、安宅の関を経、芭蕉が詠みし東国武士の無残な墓を探し出す。

福井　敦賀、小浜　朗読　岡咲美一　一〇分
敦賀、金崎宮、大門小門、小浜、「歴史街道」に古のシーンが浮かび上がる。

鳥取　鳥取砂丘、大山　朗読　長谷川葉月　一〇分
砂丘、賀露港、湖山池、名山・大山。この山の素晴らしさは遠くからの仰望にある。

島根　宍道湖、出雲大社、日御碕　朗読　堀妃巳真　一〇分
安来節、宍道湖の美味、最古の神社・出雲大社、日御碕、美保の関。もう一つの日本の原点。

大阪心斎橋

収録時間　一五四分

4 田山花袋

山陽・四国・九州

岡山　津山、岡山、後楽園　朗読　中島幸子　一一分
交通の要衝、津山、戦国時代を生き抜いた岡山。大きな自然の中に小さな自然があるような後楽園。

広島　尾道、厳島　朗読　助川真理　九分
坂道の多い尾道、一線の細い濃やかな景色を持つ瀬戸、絹地に描かれた絵画のような厳島神社。

山口　錦帯橋、下関　朗読　土村啓子　一二分
のんびりと、時代錯誤の如き錦帯橋、壇ノ浦の底知れぬ哀しさは、時代を超えて今も漂う。

愛媛　松山、道後温泉　朗読　小畑喜代子　九分
山城の美しさを誇る松山、伝統ある道後温泉。南国気分漂う海岸平野。

香川　高松、屋島、金比羅宮　朗読　小畑喜代子　四分
源平の戦いを彷彿させる讃岐、屋島、名高い流行神、金比羅宮。

徳島　徳島、吉野川　朗読　小畑喜代子　五分
大河・吉野川の流域に広がる豊穣な土地、四国の主峰・剣山周辺。

高知　物部川、甲浦　朗読　佐藤遊歩　五分
土佐日記の舞台、物部川、宇多の松原、手結の山。佐賀の乱の江藤新平が捕らえられた河波境の港町、甲浦。

福岡　八幡製鉄所、福岡、太宰府　朗読　近江千恵子　二五分
近代日本の原動力、八幡製鉄所、古の栄耀栄華を伝える香椎の宮、箱崎宮、菅公の太宰府天満宮。

尾道岩古島

九州

熊本　田原坂、熊本城、水前寺公園、阿蘇山、八代、人吉、球磨川　朗読　緒方　郁　一九分
西南戦争の激戦地、田原坂、清正の名城・熊本城、阿蘇活火山。肥後・熊本は尚武の気風に富んでいる。

鹿児島　国分、桜島、川内、池田湖、開聞岳、大隅半島、志布志　朗読　瀧上美佐子　二三分
桜島、錦江湾、開聞岳、池田湖、志布志。明治維新を成した烈しき薩摩は、風光明媚な静かな所でもある。

宮崎　鵜戸神宮、宮崎、青島、延岡　朗読　綱田啓子　一〇分
高天原になぞらえる高千穂、海岸に社を持つ鵜戸神宮。宮崎には山にも海にも大きな神様が住んでいる。

大分　別府、耶馬渓、英彦山　朗読　岡野尚子　二三分
海の幸、山の幸を備えた別府温泉、岩石の特長を誇る耶馬渓、噴煙ならぬ香煙絶えぬ彦山神社。

佐賀　佐賀、唐津、呼子港、名護屋城　朗読　江利川孝子　一〇分
秀吉が朝鮮征伐で一年も滞在した名護屋城、荒い海に浮かぶ加部島、三千年に亘り鎮座する田島神社。

長崎　温泉岳、長崎、南島　朗読　友貴静江　二三分
外国人は〈庭園のような国〉と褒めたが、風景の美だけでなく、日本はここから〈近代〉をスタートさせていった。

長崎大浦

収録時間　一五七分

〈放浪〉の中に生き己を表現した林芙美子。青春の蹉跌を北の大地に癒した石川啄木。各地の名勝を発掘した旅作家の草分け大町桂月。共に近代文学を創った田山花袋の盟友、国木田独歩、柳田國男。国内外を巡り民芸の美を発見した柳宗悦。〈旅する文人たち〉の紀行集。

5

林 芙美子、石川啄木、国木田独歩、大町桂月、柳田國男、柳 宗悦

釧路駅

北海道

摩周湖紀行　林芙美子　朗読　石原広子　二七分

平野と湖を眺め暮らす芙美子が語る。「宿屋では牛乳と鮭と蕗ばかり。この一ケ月は、私を爽天家にしてくれた。陽気になりつつある。十一貫の小さな私が、一貫目も増えた。生きていることは愉しい」。

雪中行　石川啄木　朗読　石橋みやぢ　一六分

啄木は小樽から旭川に向かう車中から見る景色を「木という木は皆、その幹の片端に雪を着けている。死の林とは、これではあるまいか。数知れぬ樹が皆、白銀の鎧を着て立ち往生している」と描く。

空知川の岸辺　国木田独歩　朗読　水谷惠美子　一九分

開拓地を求めて石狩の野を往く若き独歩。だが、原始の大森林の中で「この場所、この時において、人はただ〈生存〉そのもの、自然の一呼吸の中に託されていることを感ずるばかりである」と空想する。

層雲峡より大雪山へ　大町桂月　朗読　桑原信子　一三分

「富士山に登って山岳の高さを語れ、大雪山に登って山岳の大いなるを語れ」の名文で始まる桂月渾身の山岳紀行は、大雪山に連なる層雲峡を「鬼神が天上に楼閣を造れるかと思われるばかり」と絶賛する。

屋久島・沖縄

屋久島紀行　林芙美子　朗読　石原広子　四〇分

初め鬱蒼とした樹林に蔽われた山々を見「人間が住んでいる島なのか」と感じた芙美子。だがトロッコで山上に達すると「鋭利な知能を必要としない自然、老境に入った都会を見捨て、柔らかい山ふところに登りつめ、私はその楽しみの飽くことを知らない。山の精力が細かな種子になって降る」と詠む。

沖縄の思い出　柳 宗悦　朗読　飯田明子　一七分

沖縄に長く滞在した「万葉時代が今も生きている」と、この地の詩歌、音楽、舞踊、織物、工芸品等をこよなく愛した「美の巨人」宗悦。その特長を「沖縄の音楽や踊りは、日々の暮らしの中に滲み込んでいて、むしろ暮らしがそれらのものの中にあり、それがない所に、暮らしがない有様です」と述べる。

島の人生　柳田國男　朗読　佐藤遵歩　一四分

「沖縄は決して最後の沖の小島ではない。その抱えている苦しみも、宮古、八重山の島の人々が、沖縄に感じている不便と不満と同じものである」と國男は述べ、〈諸君の不平には限界があってはならぬ。広い共通の不満を深く掘り下げて研究して見ようではないか〉と青年に熱く語りかける。

収録時間　一四五分

図書館、学校、その他公共施設等での館外貸出し自由

朗読版 CD

紀行文学名作選

日本朗読人協会 編

2枚組×全5巻

各3,500円+税

1. みちのく、東北編　田山花袋　146分　ISBN 978-4-336-058812　C0893
2. 関東、中部編　田山花袋　156分　ISBN 978-4-336-058829　C0893
3. 近畿、北陸、山陰編　田山花袋　154分　ISBN 978-4-336-058836　C0893
4. 山陽、四国、九州編　田山花袋　157分　ISBN 978-4-336-058843　C0893
5. 北海道、屋久島・沖縄編　林芙美子・石川啄木・国木田独歩　大町桂月・柳宗悦・柳田國男　145分　ISBN 978-4-336-058850　C0893

好評既刊

朗読版 CD

児童文学名作選

日本朗読人協会 編

CD6枚組 12,000円+税

小川未明、小泉八雲、宮沢賢治、芥川龍之介、押川春浪、有島武郎、宮生犀星、太宰治、菊池寛
若松賤子、豊島与志雄、宇野浩二、島崎藤村、秋田雨雀、北原白秋、福沢諭吉、鈴木三重吉

朗読版 CD

仏教文学名作選

日本朗読人協会 編

CD5枚+解説1枚 12,000円+税

小泉八雲、菊池寛、田山花袋、芥川龍之介、坂口安吾、森鴎外、中島敦、泉鏡花、岡本かの子
夏目漱石、太宰治、宮沢賢治、幸田露伴、堀辰雄、尾崎紅葉

※ 注文は最寄りの書店、または直接当社へ

株式会社 国書刊行会　〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15　電話：03-5970-7421　FAX: 03-5970-7427　http://www.kokusho.co.jp　E-mail: sales@kokusho.co.jp